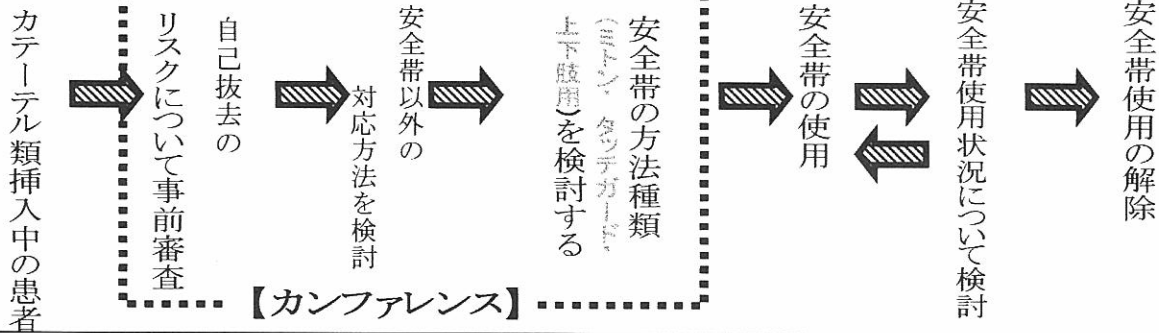


現状把握

図5. 自己抜去予防に対する介入の業務フロー

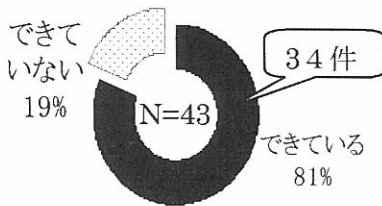
作成日: H19.1.16 作成者: 中川・福田



安全帯とは: 患者様の四肢などの動きを制限するための拘束用具

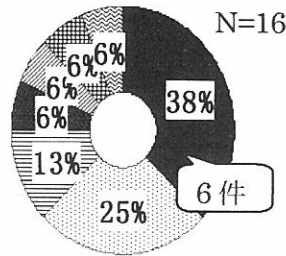
一般的には抑制帯と呼ばれているが、当院では患者の安全を確保するために使用しているため安全帯と呼んでいる

図6. 自己抜去についてのチームカンファレンスの有無



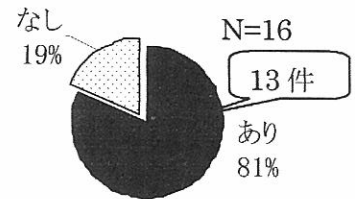
調査期間: H19.1.30~H19.2.11
作成日: H19.2.13 作成者: 立花・有田

図7. 自己抜去の内訳



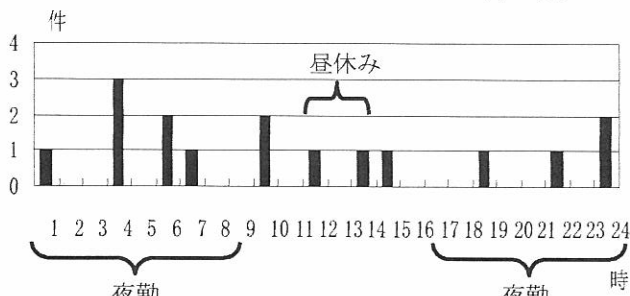
調査期間: H18.4~H19.3
作成日: H19.4.3 作成者: 立花・有田

図8. 自己抜去時の認知症、不穏の有無



調査期間: H18.4~H19.3
作成日: H19.4.3 作成者: 立花・有田

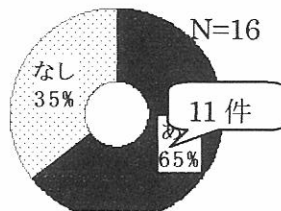
図9. 自己抜去の発生時間



調査期間: H18.4~H19.3

作成日: H19.4.3 作成者: 立花・有田

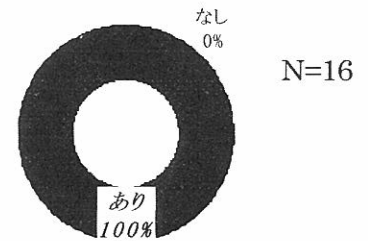
図10. 自己抜去発生時の安全帯使用の有無



調査期間: H18.4~H19.3

作成日: H19.4.3 作成者: 立花・有田

図11. 自己抜去時の安全帯緩みの有無



調査期間: H18.4~H19.1

自己抜去時の安全帯の緩み 100%

作成日: H19.4.3 作成者: 立花・有田

分かった事

安全帯についてのカンファレンスは実施されているが、図7のように様々なチューブ類などが自己抜去されている。患者の状態は認知症や不穏などが多い。また、自己抜去のほとんどがスタッフの少ない昼休みや夜勤帯に発生している。安全帯を使用しているにもかかわらず、65%も自己抜去が発生している。その際、全てに安全帯の緩みが起こっていた。

活動計画

作成日 H19.1.11 作成者: 姫野・野口



表1. 活動計画

	担当者	12月	1月	2月	3月	4月	5月
テーマ選定	岩本 野口	→					
現状把握	加藤 姫野		→	→			
要因解析	二ノ宮 立花			→	→		
対策立案・実施	中川 有田				→	→	
効果の確認	岩本 仁田原				→	→	
標準化と管理の定着	加藤 野口					→	→
反省と今後の課題	全員						→

目標設定

表2. 目標設定

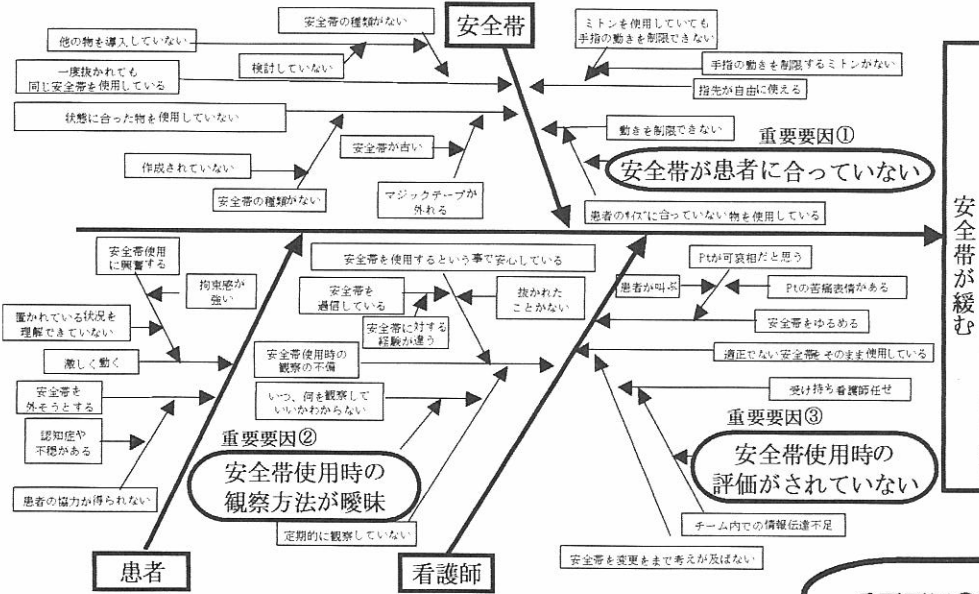
作成日:H19.2.21 作成者:岩本

	目標
いつまでに	平成19年4月30日
何を	安全带使用中の緩み100%
どうする	0%にする
根拠	患者様の治療が安全かつ円滑に行えるようにする為

要因解析

図12. 特性要因図

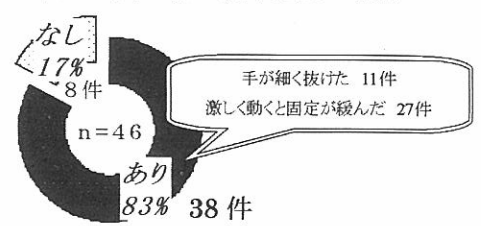
作成日H19.3.8 作成者:有田



重要要因の検証

重要要因①安全带が患者に合っていない

図13. 安全带の緩み発生の有無



調査期間 : H19.1.30~H19. 2.11

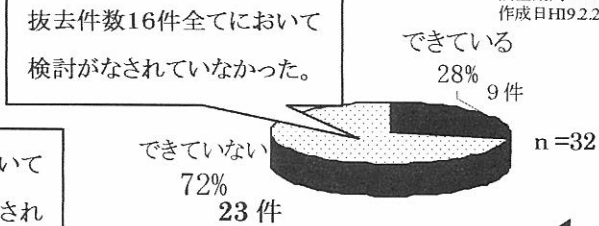
作成日H19.2.20 作成者:姫野・野口

重要要因③安全带使用時の評価がされていない

図15. 安全带使用状況の検討

調査期間: H19.1.30~2.11

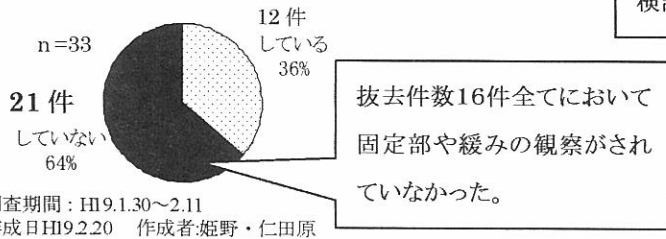
作成日H19.2.20 作成者:二ノ宮・加藤



重要要因は真の要因である

重要要因②安全带使用時の観察方法が曖昧

図14. 訪室時毎に固定部や緩みの観察



調査期間: H19.1.30~2.11
作成日H19.2.20 作成者:姫野・仁田原

対策立案

図16 対策立案の系統図

作成日:H19. 4. 3 作成者:仁田原

評価点 ◎:5点 ○:3点 △:1点

重要要因	一次対策	二次対策	三次対策	効果	実現性	採否	対策
安全带が患者様に合っていない	患者に合った安全带を準備する	文献やインターネットで調べる	いろいろなサイズを購入する	○	△		
		上肢や手指の動きを制限可能な安全带を作成する	鍋つかみとレッグウォーマーを利用する	◎	◎	採	①
			スポンジと日焼け予防手袋を利用する	△	○		
安全带使用時の観察方法が曖昧	安全带使用時の観察方法を具体的に示す	既存のマニュアルを見直す	病棟会議で検討する	◎	◎	採	②
			他院から情報を得る	△	△		
			所属長に考えてもらう	○	△		
安全带使用時の評価がされていない	安全带使用時の評価をする	安全带使用時の評価をする具体的な方法を定める	朝のチームカンファレンスで話し合う	◎	◎	採	③
			マニュアルに追加する	◎	◎	採	④
			対象者を明確にする	◎	◎	採	⑤
			看護師間連絡シートを利用する	△	○		
			検討する担当者を決める	○	△		
			検討する日を決める	◎	◎	採	⑥

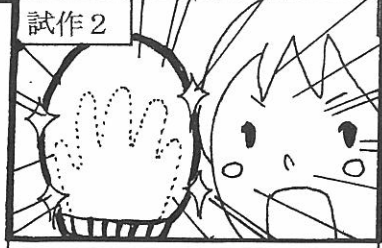
対策①のフレテスト

試作1



【試作1】 鍋つかみとレッグウォーマーを利用。「腕が楽」「かわいい」と患者、家族の声あり。しかし、親指が自由に動きカテゴリーが引っかかる恐れあり。

試作2



【試作2】 親指まで一つの袋の中に納まるミトンを作成。患者より「自由に指が動かして良いね」と好評！しかし、動きの激しい患者には対応できない

試作3



【試作3】 試作1をアプロに固定し体幹の下に敷込み自由に体動できるミトンを作成。→対象者おらず、スタッフ間にて実施。体が動くので拘束感軽減。固定良好！

対策の実施

表3. 対策実施

作成日H19.4.22 作成者:二ノ宮・加藤

対策	なぜ	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
①	患者に合った安全帯を準備するため	平成19年4月10日	サービスセンター	サークルメンバー	患者の動きに対応できる安全帯	手作りする
②④	マニュアルに不具合があるため	平成19年4月7日			マニュアル	見直す
③	安全帯の使用効果を確認するため	カンファレンス時		日勤メンバー	安全帯の使用効果	評価する
⑤	安全帯使用者を明確にし、確実な話し合いを行うため	ワークシート記入時		夜勤者	安全帯使用中である事	記入する
		安全使用開始時		受け持ち看護師	カルテに「安」シール	貼る
⑥	安全帯の適正な使用を行うため	カンファレンス時		日勤メンバー	安全帯の使用効果	評価する

対策毎の結果対策①患者に応じて安全帯を使い分けるようになり、緩みが生じなくなった。

対策②④マニュアルを見直し、使用方法の統一が図れるようになった。

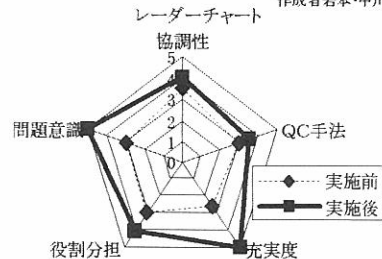
対策③⑥毎日のカンファレンスで使用方法の評価が100%でき、対策①へと繋がった。

対策⑤シールやワークシートの活用で使用者が明確となり、話し合いが確実に行われた。

無形効果

図19. 無形効果

作成日H19.4.24
作成者岩本・中川



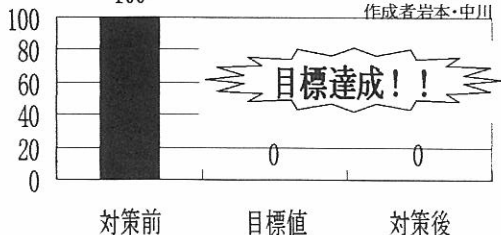
★朝のカンファレンス時に、安全帯使用についてだけでなく、転倒・転落防止についての話し合いができるようになった。
★毎日のカンファレンスを行なう事により、情報の共有化を図れるようになった。

効果の確認

有形効果

図17. 効果の確認

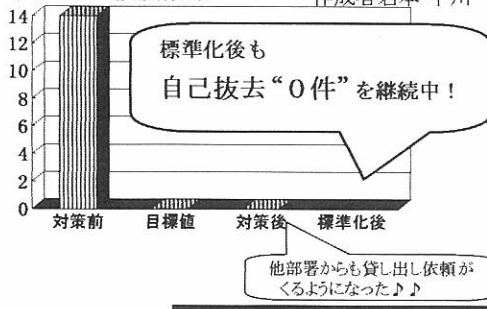
作成日H19.4.24
作成者岩本・中川



波及効果

図18. 波及効果

作成日H19.4.24
作成者岩本・中川



他部署からも貸し出し依頼がくるようになったよ！

標準化と管理の定着

表4 標準化と管理の定着

作成日H19.4.24 作成者:姫野・野口

	なぜ	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
標準化	自己抜去予防の為に安全帯の適正な使用が徹底できる為	H19.4.7	サービスセンター	サークルメンバー	マニュアル	改訂した
		新入職・異動時	サービスセンター	チームリーダー	安全帯使用について	指導する
管理		病棟会議	二階病棟	物品チェック係	安全帯の不具合	点検する
		問題発生時	二階病棟	スタッフ全員	対策	検討する
		6・12月	二階病棟	セーフティスタッフ	マニュアルの遵守	調査する

反省と今後の課題

表5 反省と今後の課題

作成日H19.4.24 作成者:姫野・野口

	良い点・反省点	今後の課題	いつまでに
サークル運営面	○職場の方針に合った内容だった	日頃から問題意識を持って取り組む	
	○全員参加し活動することができた	金合録や掲示板を活用し情報の共有化を図る	
テーマ解決のステップ面	○安全帯について情報収集し、学習を深める機会となった	多方面から情報収集を行う	次回の活動
	×対策後の対象者が少なく、効果の確認が十分に行えなかった	対策実施期間を十分にとる	
	○計画通りに進めることができた	確実に会合を実施していく	